

ブラジル・メキシコ・アルゼンチン 経済・金融概況 (2024年10月)

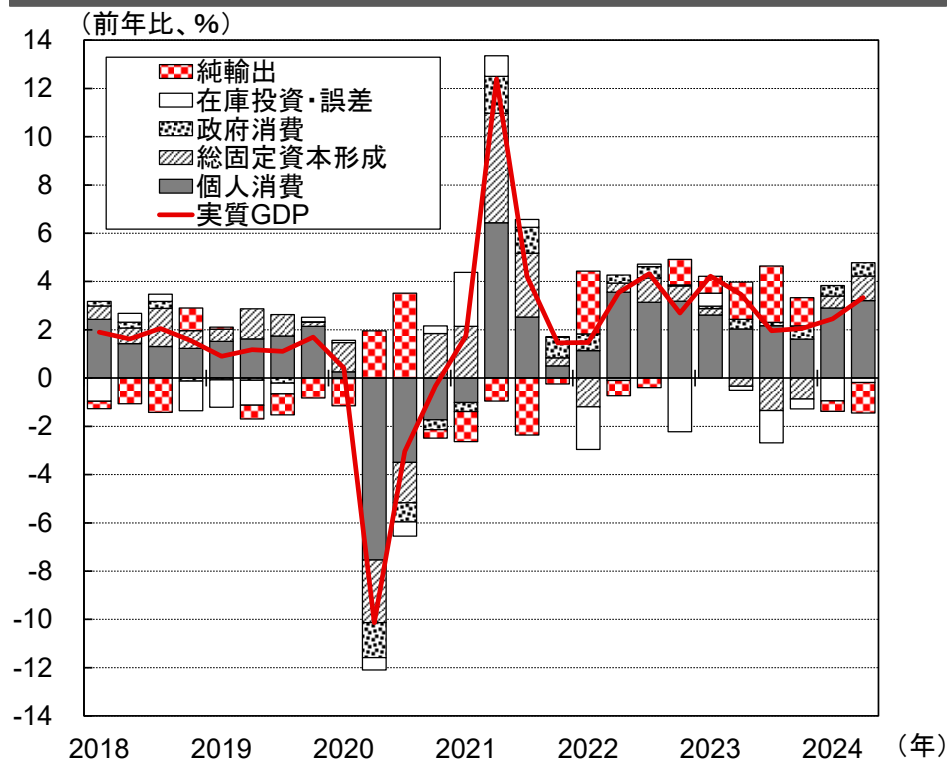
2024年10月17日

三菱UFJ銀行 経営企画部 経済調査室

1. ブラジル (1) 景気概況

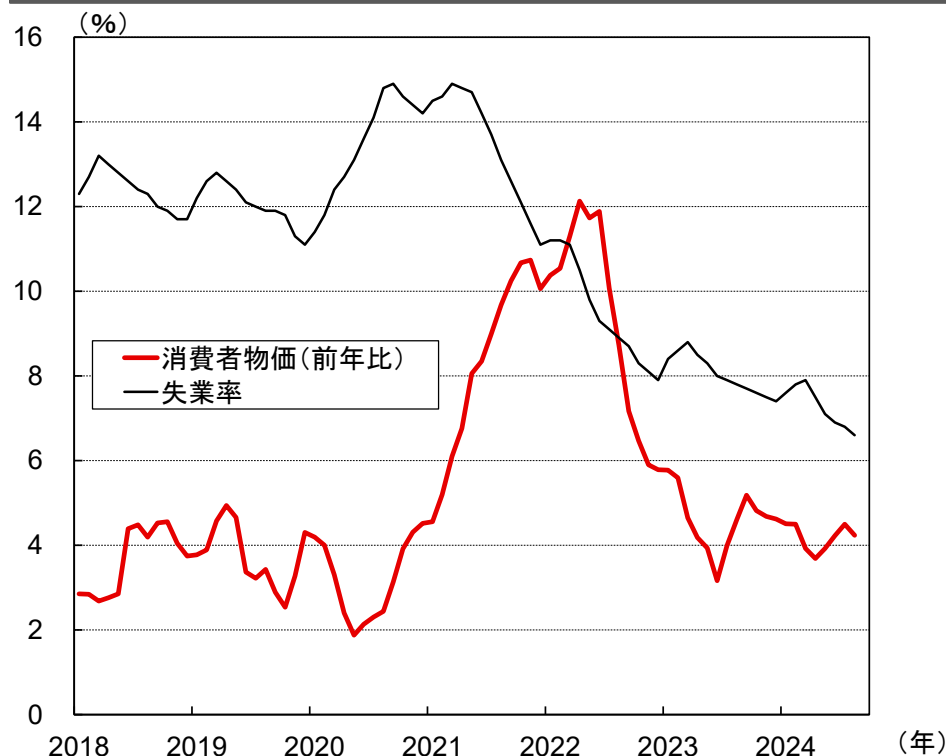
- 4-6月期の実質GDP成長率は前年比+3.3%と前期(同+2.5%)から加速。需要項目別の寄与度では、個人消費(同+3.2%ポイント)と総固定資本形成(同+1.0%ポイント)は前期からプラス幅が拡大したほか、在庫投資・誤差(同▲0.2%ポイント)は前期からマイナス幅が縮小。一方、内需の好調さを反映して輸入が増加したことを背景に、純輸出(同▲1.3%ポイント)はマイナス幅が拡大。産業別にみると、サービス業や製造業の堅調が全体を押し上げた。
- 8月の失業率は6.6%と緩やかな低下傾向が継続。
- 8月の消費者物価上昇率は前年比+4.2%と、年初より横這い圏内で推移。

実質GDP成長率の推移



(資料) ブラジル地理統計院統計より国際通貨研究所作成

消費者物価上昇率と失業率の推移

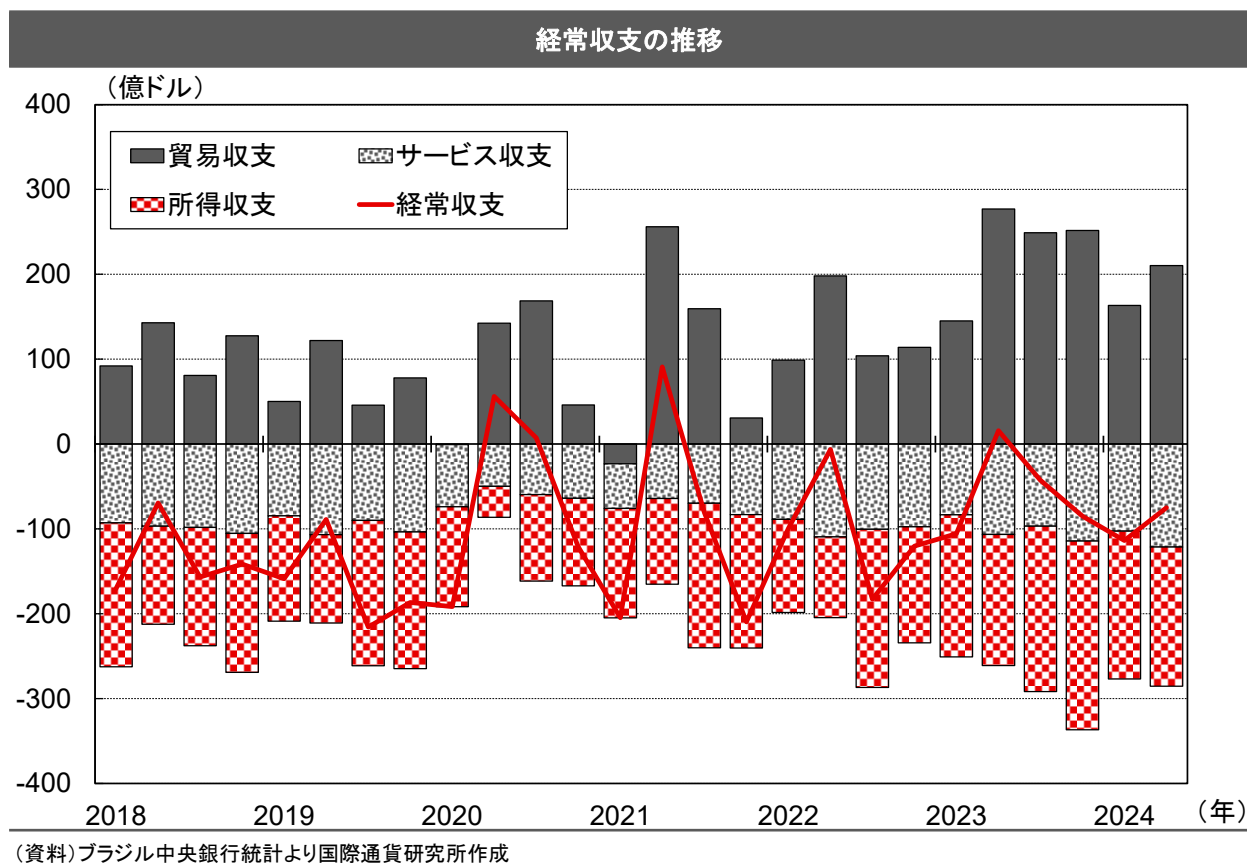


(注) 失業率は未季節調整値。

(資料) ブラジル地理統計院統計より国際通貨研究所作成

1. ブラジル (2) 経常収支

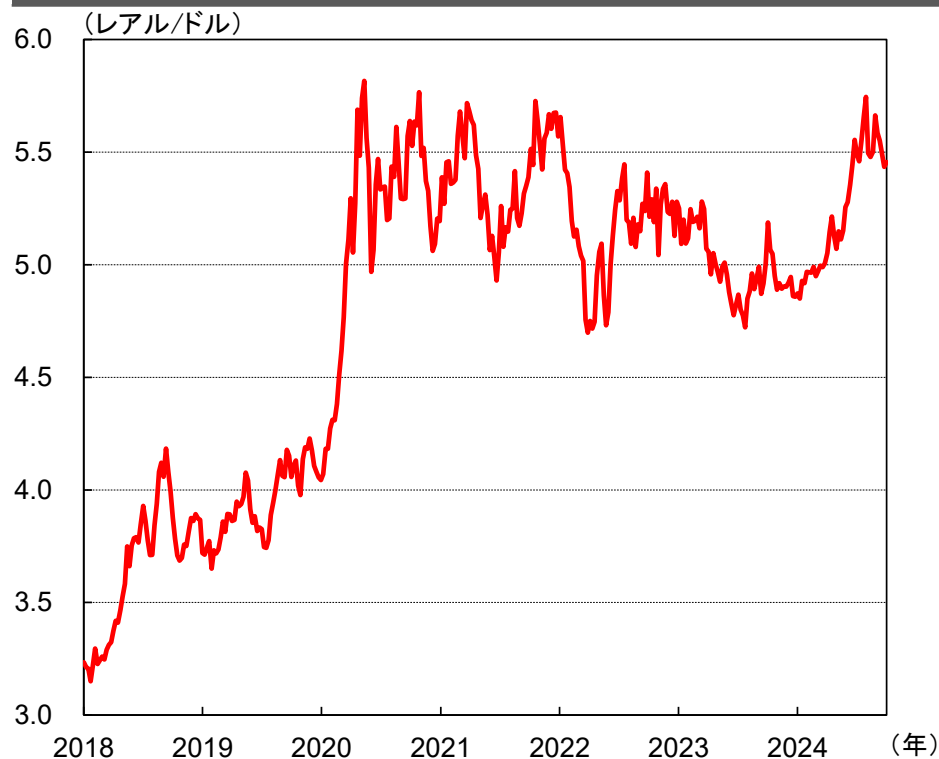
- 4-6月期の経常収支は▲75億ドルと、貿易収支の黒字額縮小を主因に、前年同期の16億ドルから赤字に転じた。
- 貿易収支は210億ドルと前年同期の277億ドルから縮小。主要輸出品である一次産品の価格下落を受け、輸出の伸びは前年比+0.5%に止まった一方、内需の堅調を背景に輸入が同+10.0%と増加。



1. ブラジル (3) 金融市場

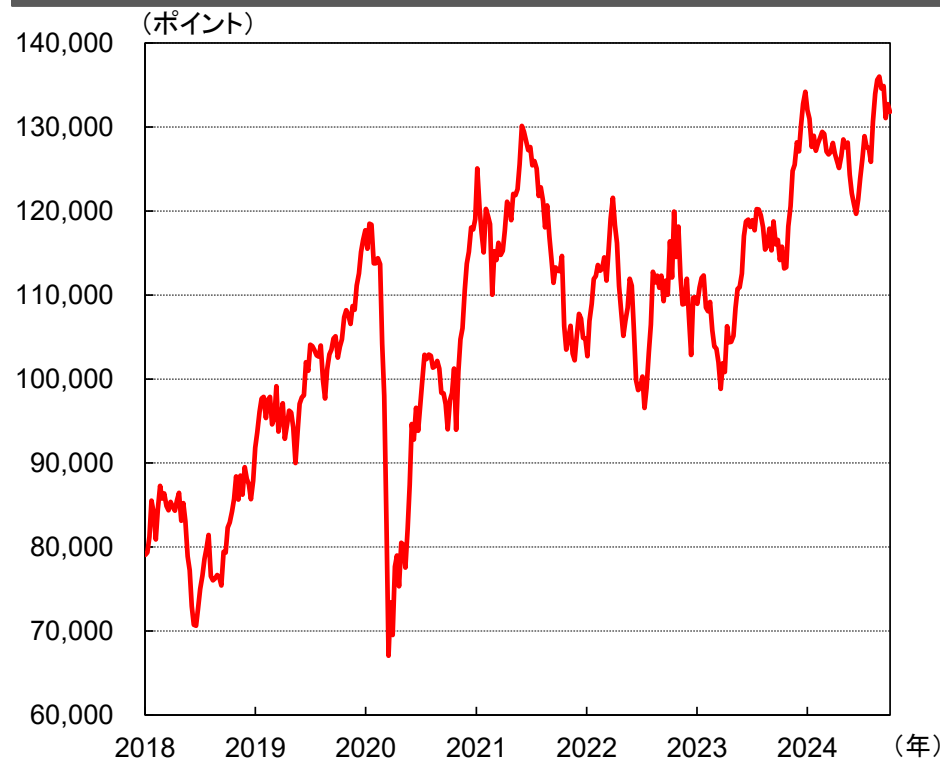
- 2023年8月以降累計で3.25%ポイントの利下げを実施してきたブラジル中央銀行は、2024年9月の金融政策委員会において、0.25%ポイントの利上げを決定(政策金利: 10.75%)。大規模な干ばつを受けた食料や電力の供給懸念によるインフレを警戒し、2年ぶりの利上げに転じたもの。ブラジルは発電量の半分以上を水力発電が担っているが、長引く干ばつの影響で水力発電所の稼働率が低下。足元火力発電所の稼働が増えており、その燃料費の負担から電気料金が上昇している。
- ブラジルレアルの対ドル相場は、米国との金利差の拡大により小幅上昇し、足元1ドル=5.4レアル近辺で推移。
- 株価(ボベスパ指数)は、足元で130,000ポイント台で推移。

ブラジルレアル(対米ドル)の推移



(資料) Refinitiv Datastreamより国際通貨研究所作成

株価(ボベスパ指数)の推移



(資料) Refinitiv Datastreamより国際通貨研究所作成

1. ブラジル (4) 経済・金融概況

ブラジルの主要経済指標

	年次			四半期次				月次			
	2021	2022	2023	23/7-9	10-12	24/1-3	4-6	24/6	7	8	9
実質GDP成長率(前年比、%)	(4.8)	(3.0)	(2.9)	(2.0)	(2.1)	(2.5)	(3.3)				
経済活動指数○	139.07	143.02	146.67	146.31	146.70	148.86	150.55	152.09	151.46	—	—
鉱工業生産(前期比、%)○	(4.2)	(▲0.7)	(0.3)	(▲0.1)	(1.2)	(0.5)	(0.7)	(4.3)	(▲1.4)	(0.1)	—
設備稼働率○	(80.9)	(80.4)	(78.7)	(78.5)	(78.7)	(78.9)	(79.3)	(79.5)	(79.5)	(79.3)	—
小売売上高(前年比、%)	(2.2)	(1.1)	(1.7)	(2.7)	(1.4)	(5.9)	(4.7)	(4.1)	(4.4)	—	—
自動車国内販売台数(千台)	2,120	2,104	2,309	631	679	515	629	214	241	237	236
失業率(%)	(13.5)	(9.5)	(8.0)	(7.8)	(7.5)	(7.8)	(7.2)	(6.9)	(6.8)	(6.6)	—
消費者物価上昇率(IPCA) (前年比、%)	(8.3)	(9.3)	(4.6)	(4.6)	(4.7)	(4.3)	(4.0)	(4.2)	(4.5)	(4.2)	—
卸売物価上昇率(前年比、%)	(37.0)	(11.2)	(▲6.1)	(▲10.7)	(▲6.4)	(▲6.4)	(▲1.8)	(1.9)	(3.7)	(4.2)	(4.5)
輸出(FOB)(億ドル)	2,808	3,341	3,397	888	868	785	901	290	311	292	—
(前年比、%)	(34.2)	(19.0)	(1.7)	(▲3.0)	(4.7)	(1.5)	(▲0.8)	(▲2.8)	(9.2)	(▲6.8)	—
輸入(FOB)(億ドル)	2,194	2,726	2,408	639	617	622	691	233	241	252	—
(前年比、%)	(38.2)	(24.2)	(▲11.7)	(▲21.3)	(▲13.8)	(▲1.0)	(9.4)	(13.5)	(15.2)	(12.0)	—
貿易収支(億ドル)	614	615	989	249	252	163	210	57	70	40	—
経常収支(億ドル)	▲404	▲409	▲217	▲43	▲85	▲114	▲75	▲41	▲49	▲66	—
直接投資ネット流入(億ドル)	464	746	642	195	143	246	132	63	73	61	—
外貨準備高(億ドル)◎	3,094	2,719	3,170	3,092	3,170	3,172	3,067	3,067	3,115	3,139	3,191
ベースマネー(億リアル)◎	4,092	4,197	4,227	4,045	4,227	4,178	4,369	4,369	4,328	4,346	—
政策金利(Seric Target rate)◎	(9.25)	(13.75)	(11.75)	(12.75)	(11.75)	(10.75)	(10.50)	(10.50)	(10.50)	(10.50)	(10.75)
対米ドル為替相場◎	5.580	5.217	4.841	5.007	4.841	4.996	5.559	5.559	5.662	5.656	5.448
株価指数(ボベスパ指数)◎	104,822	109,735	134,185	116,565	134,185	128,106	123,907	123,907	127,652	136,004	131,816

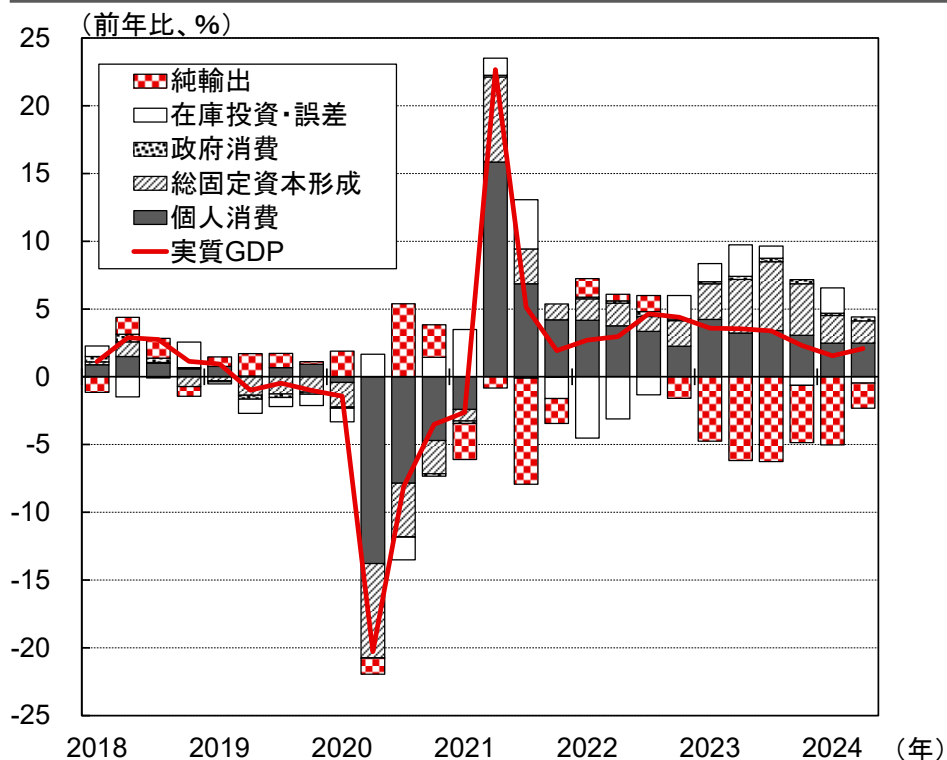
(注)◎印:期末値、○印:季節調整値

(資料)ブラジル中銀、ブラジル地理統計院(IBGE)、世界銀行、サンパウロ証券取引所より国際通貨研究所作成

2. メキシコ (1) 景気概況

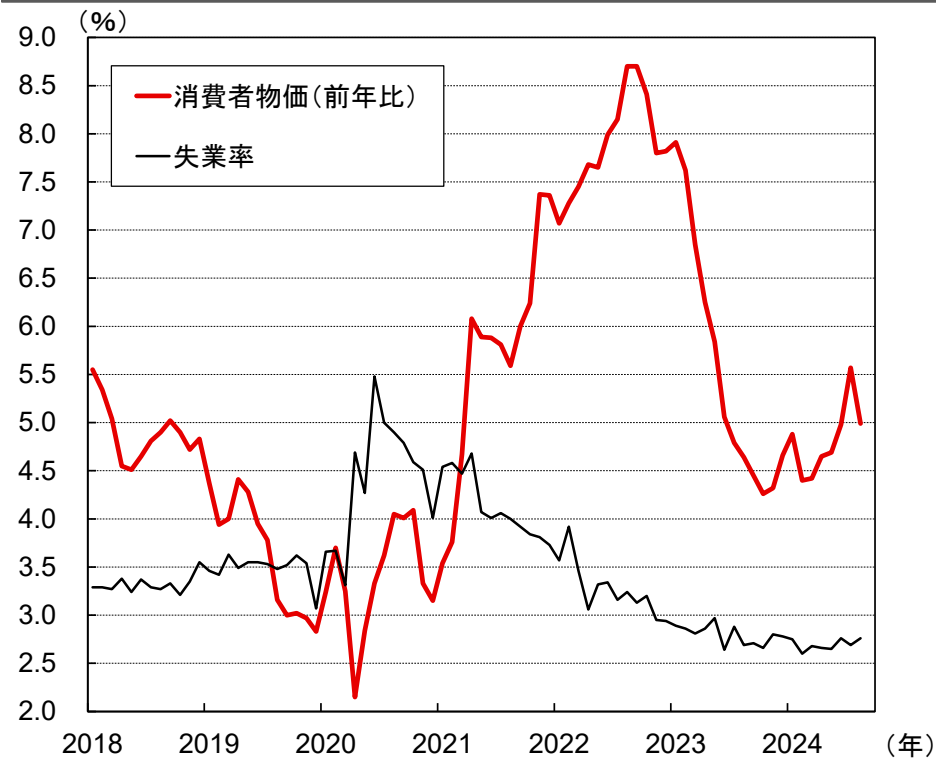
- 4-6月期の実質GDP成長率は前年比+2.1%と、前期(同+1.5%)から加速。純輸出の寄与が7期連続のマイナスとなったものの、輸出に底入れの動きがみえたことで前期からマイナス幅が縮小したことが主因。個人消費(同+2.5%ポイント)は横這い、総固定資本形成(同+1.7%ポイント)はプラス幅が縮小し、在庫投資・誤差(同▲0.5%ポイント)はマイナスに転じた。
- 8月の失業率は2.8%と低位で推移。
- 8月の消費者物価上昇率は前年比+5.0%と、農産物やエネルギーなどの価格下落を背景に6カ月ぶりに鈍化も、メキシコ銀行(中銀)の定めるインフレ目標(前年比+3%±1%)の上限を超過。

実質GDP成長率の推移



(資料) 国立統計地理情報院統計より国際通貨研究所作成

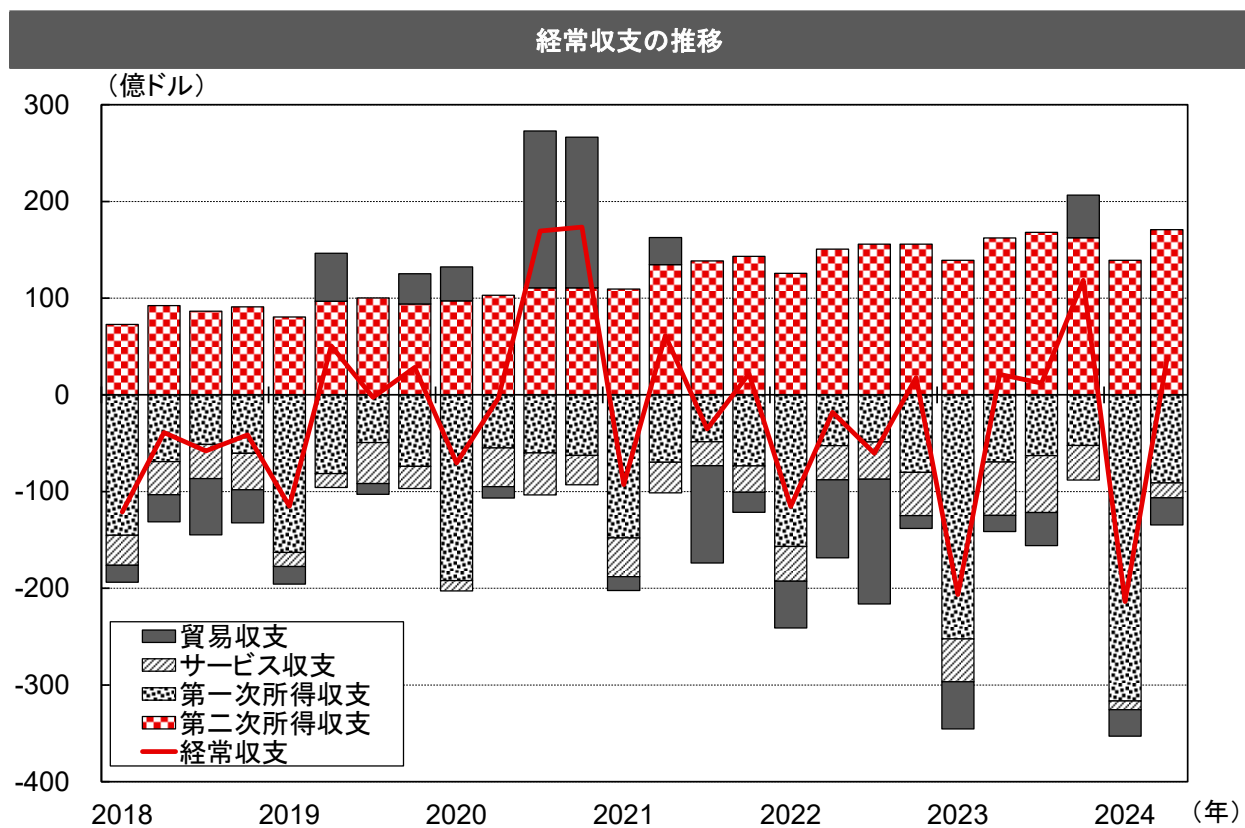
消費者物価上昇率と失業率の推移



(資料) 国立統計地理情報院統計より国際通貨研究所作成

2. メキシコ (2) 経常収支

- 4-6月期の経常収支は36億ドルと、前年同期の21億ドルから黒字幅が拡大。
- 内訳をみると、貿易収支は▲28億ドル(前年比▲11億ドル)に、第一次所得収支は▲91億ドル(同▲22億ドル)にそれぞれ赤字幅が拡大したものの、サービス収支は▲16億ドル(同+40億ドル)と赤字幅が縮小したほか、第二次所得収支は171億ドル(同+8億ドル)と黒字幅が拡大した。



(資料)メキシコ中央銀行統計より国際通貨研究所作成

2. メキシコ (3) 金融市場

- メキシコペソの対ドル相場は、司法制度改革の進捗^(注)等により投資家のリスク回避姿勢が高まり、足元1ドル＝19ペソ台までペソ安が進行。

(注)メキシコでは判事公選制の導入を巡り、司法に対する行政府の影響が強まることに対する懸念・反対が根強く、不透明感の原因となっている。

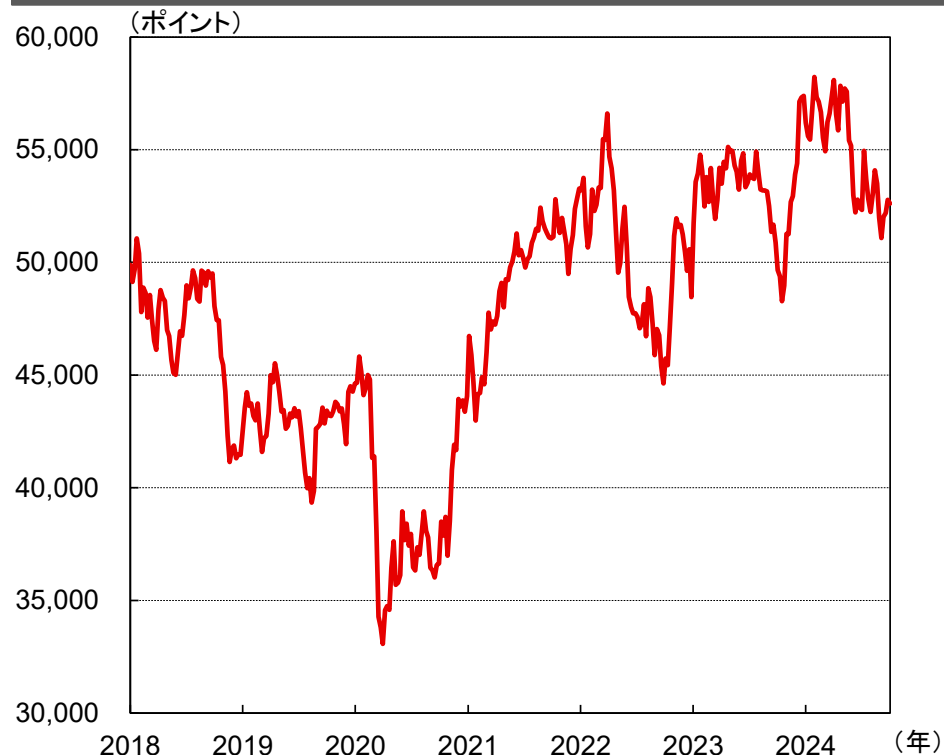
- 国内のインフレが鈍化傾向にある中、メキシコ銀行(中銀)は9月の金融政策決定会合において、政策金利を8月に続き2会合連続で0.25%ポイント引き下げ、10.5%とした。
- 株価(ボルサ指数)は、足元で52,000ポイント台で推移。

メキシコペソ(対米ドル)の推移



(資料) Refinitiv Datastreamより国際通貨研究所作成

株価(ボルサ指数)の推移



(資料) Refinitiv Datastreamより国際通貨研究所作成

2. メキシコ (4) 経済・金融概況

メキシコの主要経済指標

	年次			四半期次				月次			
	2021	2022	2023	23/7-9	10-12	24/1-3	4-6	24/6	7	8	9
実質GDP成長率(前年比、%)	(6.1)	(3.7)	(3.2)	(3.4)	(2.3)	(1.5)	(2.1)				
鉱工業生産(前期比、%)○	(6.5)	(4.7)	(3.5)	(0.9)	(▲0.3)	(▲0.5)	(0.5)	(0.4)	(0.2)	—	—
自動車生産台数(千台)	3,028	3,308	3,779	959	923	928	1,068	344	302	353	379
自動車販売台数(千台)	924	897	1,361	343	386	350	355	123	125	128	117
原油産出量(千バレル/日)*	1,756	1,784	1,875	1,871	1,856	1,820	1,784	1,782	1,772	1,770	—
(前年比、%)	(3.0)	(1.6)	(5.1)	(4.9)	(3.0)	(▲2.8)	(▲6.2)	(▲6.2)	(▲4.5)	(▲5.8)	—
原油輸出価格(米ドル/バレル)	65.6	88.8	70.9	76.9	74.8	72.7	74.2	72.3	73.4	71.9	—
失業率(%)○	(4.1)	(3.3)	(2.8)	(2.8)	(2.8)	(2.7)	(2.7)	(2.7)	(2.7)	(2.8)	—
消費者物価上昇率(前年比、%)	(5.7)	(7.9)	(5.5)	(4.6)	(4.4)	(4.6)	(4.8)	(5.0)	(5.6)	(5.0)	—
輸出(FOB)(億ドル)	4,949	5,777	5,930	1,499	1,513	1,435	1,559	489	548	519	—
(前年比、%)	(18.6)	(16.7)	(2.7)	(0.6)	(2.4)	(1.7)	(3.4)	(▲5.7)	(14.7)	(▲1.0)	—
輸入(CIF)(億ドル)	5,057	6,046	5,985	1,533	1,469	1,462	1,587	499	549	568	—
(前年比、%)	(32.0)	(19.6)	(▲1.0)	(▲5.3)	(▲1.5)	(0.2)	(4.1)	(▲3.6)	(13.3)	(5.7)	—
経常収支(億ドル)	▲45	▲176	▲55	12.2	118.5	▲213.7	36.4				
資本収支(億ドル)	▲0	▲1	▲0	▲0.8	▲0.1	0.1	▲0.0				
外貨準備高(億ドル)◎	2,024	1,991	2,128	2,038	2,128	2,172	2,200	2,200	2,223	2,248	2,267
ベースマネー(億ペソ)◎	24,408	27,000	29,605	27,028	29,605	30,433	29,952	29,952	30,280	30,288	30,730
政策金利◎	(5.50)	(10.50)	(11.25)	(11.25)	(11.25)	(11.00)	(11.00)	(11.00)	(11.00)	(10.75)	(10.50)
対米ドル為替相場◎	20.47	19.47	16.92	17.41	16.92	16.53	18.25	18.25	18.60	19.65	19.64
株価指数(ボルサ指数)◎	53,272	48,464	57,386	50,875	57,386	57,369	52,440	52,440	53,094	51,986	52,477

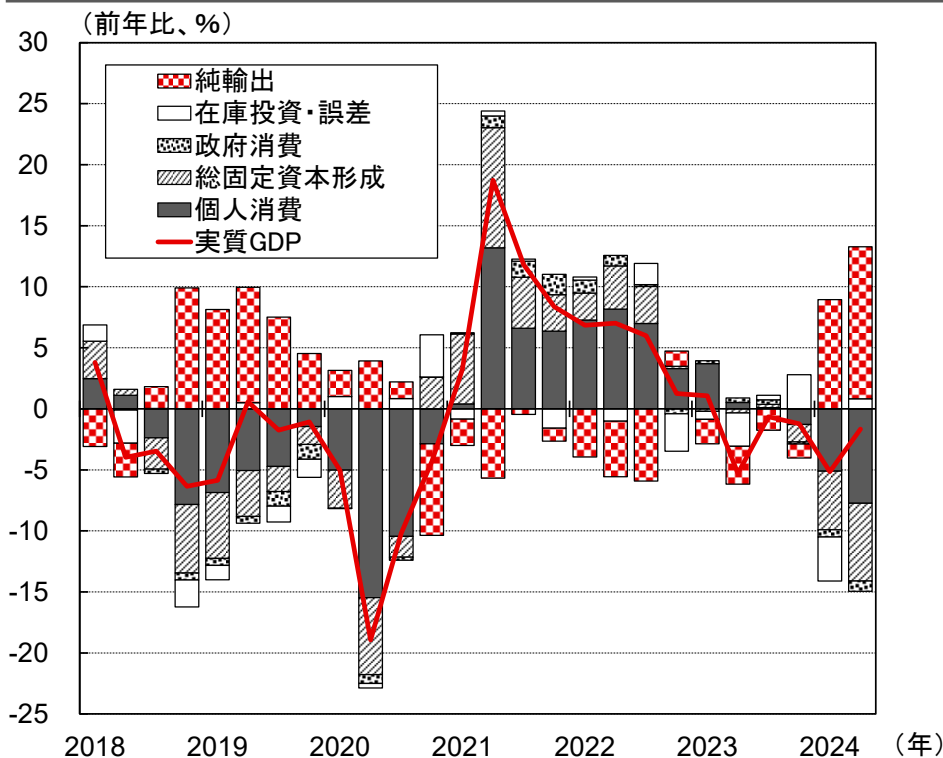
(注)*印:期中平均値、◎印:期末値、○印:季節調整値

(資料)メキシコ中銀、国立統計地理情報院(INEGI)、PEMEXより国際通貨研究所作成

3. アルゼンチン (1) 景気概況

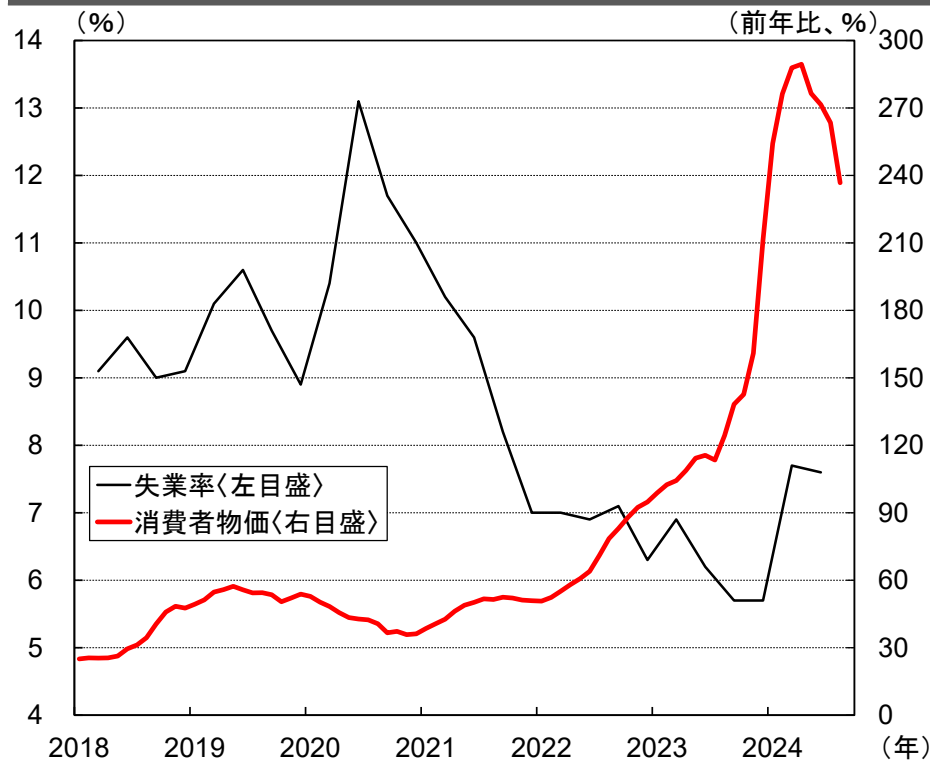
- 4-6月期の実質GDP成長率は、前年比▲1.7%と5四半期連続のマイナス成長。需要項目別の寄与度では、純輸出（同+12.5%ポイント）のプラス幅が拡大したほか、在庫投資・誤差（同+0.8%ポイント）はプラスに転じた一方、緊縮財政による内需の低迷が続き、個人消費（同▲7.7%ポイント）と総固定資本形成（同▲6.4%ポイント）が前期からマイナス幅を拡大。
- 4-6月期の失業率は7.6%と前期からは低下も高水準にあり、引き続き緊縮財政が経済活動に打撃を与えている。
- 8月の消費者物価上昇率は前年比+236.7%と4ヵ月連続で低下したものの、9ヵ月連続で200%を超過。

実質GDP成長率の推移



(資料)アルゼンチン国家統計センサス局統計より国際通貨研究所作成

消費者物価上昇率と失業率の推移

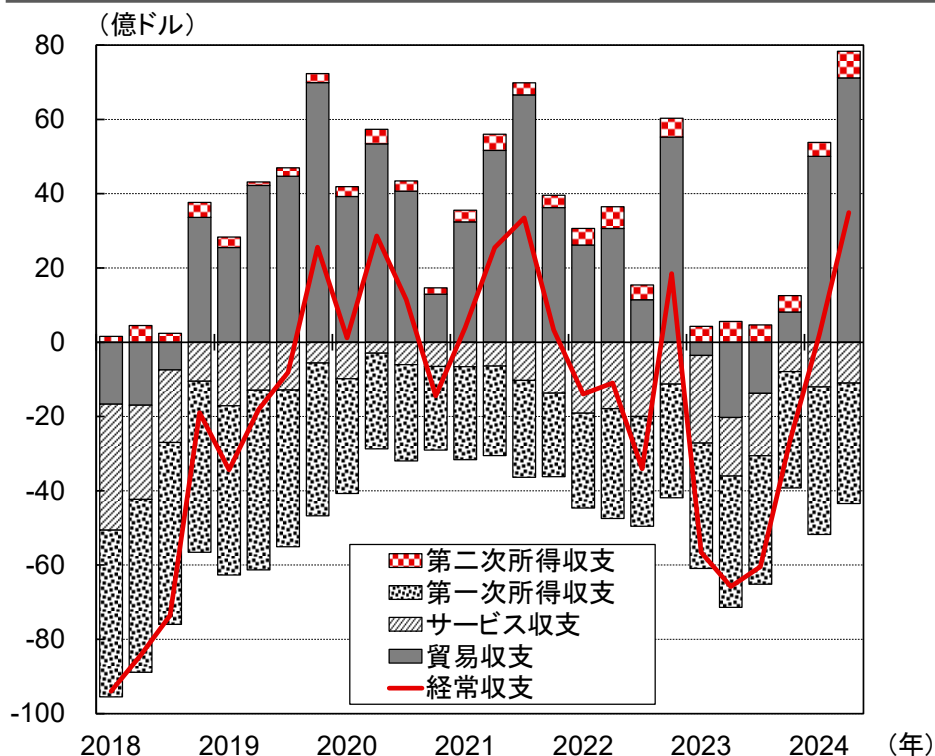


(資料)アルゼンチン国家統計センサス局統計より国際通貨研究所作成

3. アルゼンチン (2) 経常収支・外貨準備高

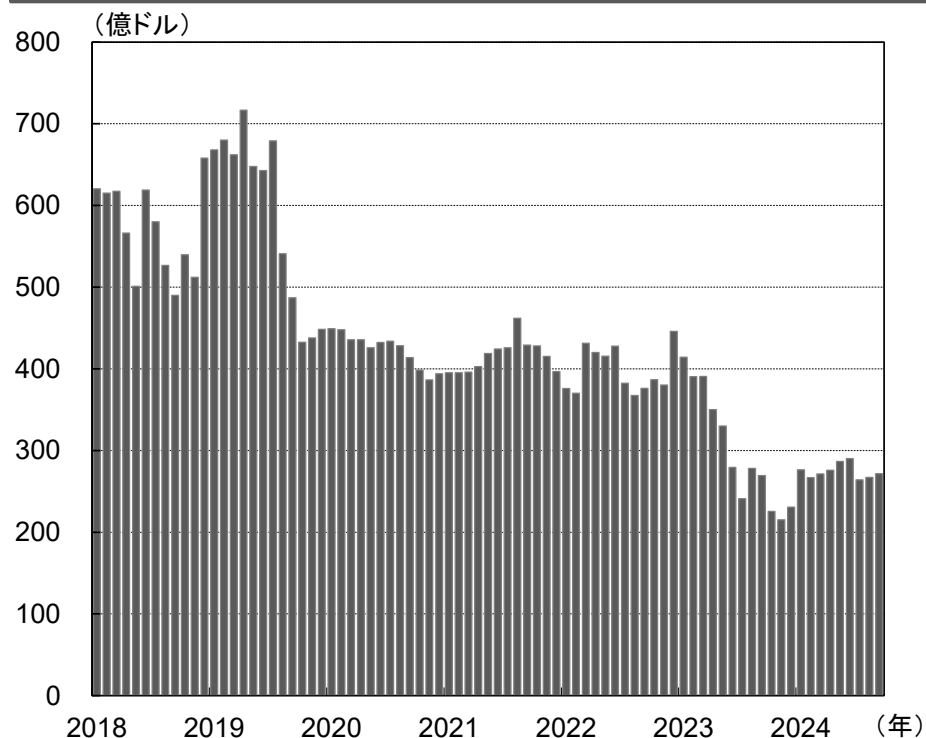
- 4-6月期の経常収支は35億ドルと、貿易収支の黒字転化を主因に、前年の赤字(▲66億ドル)から黒字となった。貿易収支は、歴史的な干ばつの影響を受けた前年同期の▲20億ドル(輸出が176億ドル、輸入が196億ドル)から、輸出の回復と景気低迷による輸入の減少を背景に、71億ドルの黒字(輸出が208億ドル、輸入が137億ドル)に転じた。
- 9月末時点の外貨準備高は272億ドルと年初よりほぼ横這いで推移。

経常収支の推移



(資料)アルゼンチン国家統計センサス局統計より国際通貨研究所作成

外貨準備高の推移

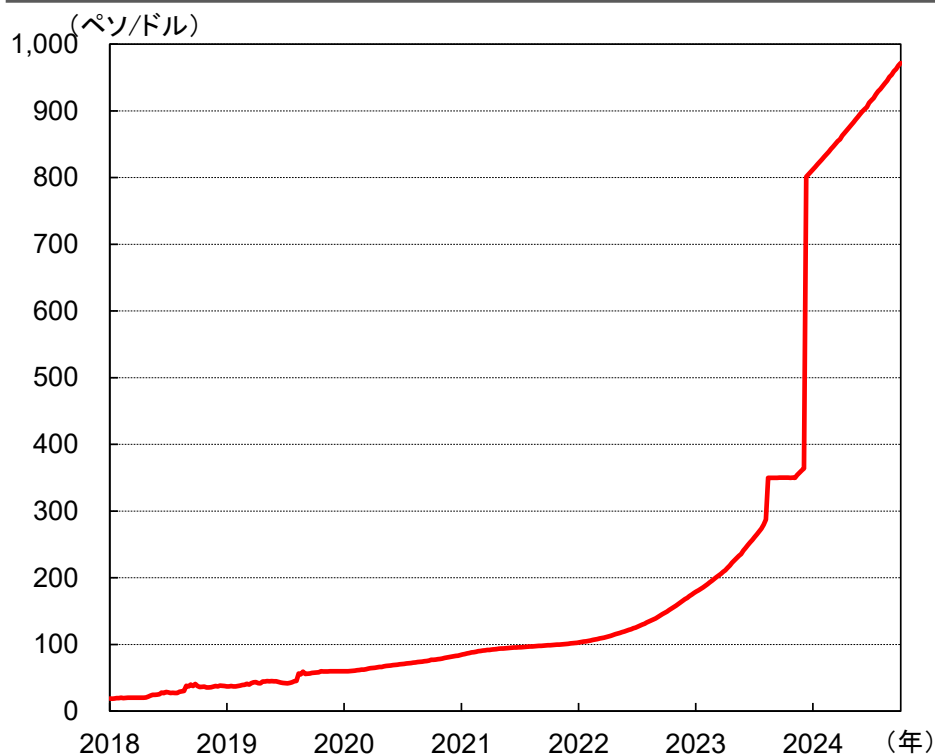


(資料)アルゼンチン中央銀行統計より国際通貨研究所作成

3. アルゼンチン (3) 金融市場

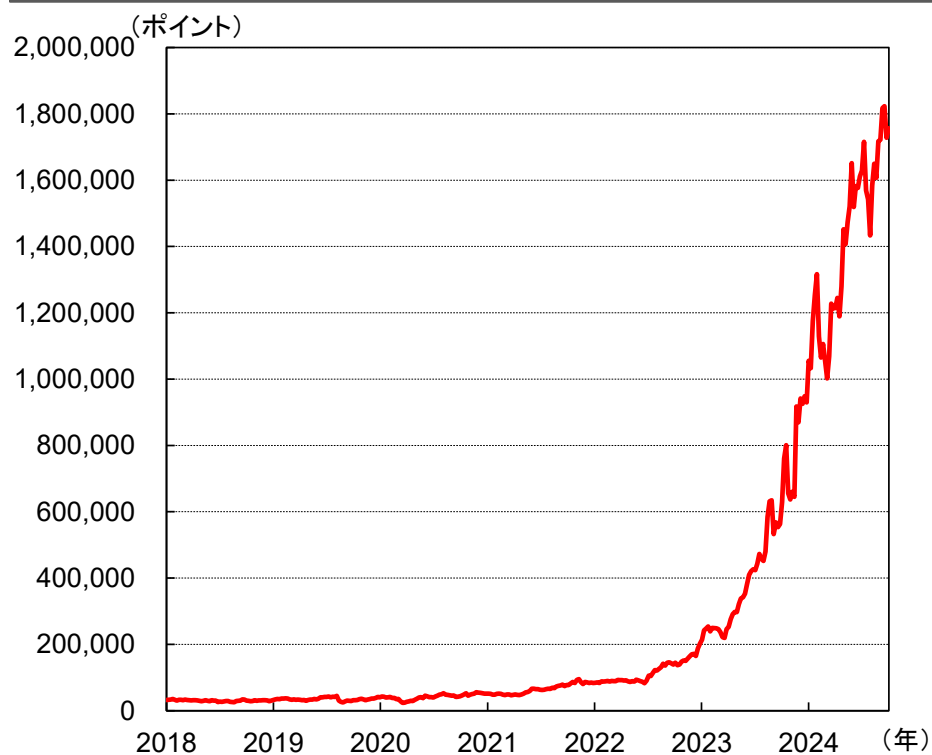
- アルゼンチンペソの対ドル相場(公定レート)は、足元1ドル=900ペソ台後半まで下落。
- 5月以降、中央銀行は政策金利を40%に据え置いている。
- 株価(メルバル指数)は、9月に1,800,000ポイント台まで上昇したものの、足元では1,700,000ポイント台で推移。

アルゼンチンペソ(対米ドル)の推移



(資料) Refinitiv Datastreamより国際通貨研究所作成

株価(メルバル指数)の推移



(資料) Refinitiv Datastreamより国際通貨研究所作成

3. アルゼンチン (4) 経済・金融概況

アルゼンチンの主要経済指標

	年次			四半期次				月次			
	2021	2022	2023	23/7-9	10-12	24/1-3	4-6	24/6	7	8	9
実質GDP成長率(前年比、%)	(10.4)	(5.3)	(▲1.6)	(▲0.7)	(▲1.2)	(▲5.2)	(▲1.7)				
鉱工業活動指数(前年比、%)	(17.2)	(4.2)	(▲1.7)	(▲3.4)	(▲6.2)	(▲14.5)	(▲17.2)	(▲20.2)	(▲5.4)	(▲6.9)	—
建設活動指数(前年比、%)	(53.4)	(3.5)	(▲3.1)	(▲4.5)	(▲3.8)	(▲29.5)	(▲35.1)	(▲35.3)	(▲20.4)	—	—
自動車生産台数(千台)	435	537	611	169	145	103	113	32	44	52	50
自動車販売台数(千台)	334	376	407	105	96	79	83	32	33	39	44
失業率(%)	(8.8)	(6.8)	(6.1)	(5.7)	(5.7)	(7.7)	(7.6)				
消費者信頼感指数	38.0	36.9	41.1	43.7	44.1	36.1	37.6	37.2	39.1	41.5	39.0
消費者物価上昇率(前年比、%)	(48.0)	(72.4)	(134.5)	(125.9)	(172.8)	(273.5)	(278.7)	(271.5)	(263.4)	(236.7)	—
輸出(FOB)(億ドル)	779	884	668	177	156	174	208	66	72	68	—
(前年比、%)	(42.0)	(13.5)	(▲24.5)	(▲22.5)	(▲26.5)	(9.5)	(18.1)	(21.7)	(19.2)	(14.9)	—
輸入(CIF)(億ドル)	632	815	737	191	148	124	137	47	57	48	—
(前年比、%)	(49.2)	(29.0)	(▲9.6)	(▲12.1)	(▲5.8)	(▲23.7)	(▲30.4)	(▲35.2)	(▲15.4)	(▲29.8)	—
貿易収支(億ドル)	148	69	▲69	▲14	8	50	71	19	15	20	—
外貨準備高(億ドル)◎	397	446	231	269	231	271	290	290	264	267	272
ベースマネー(億ペソ)◎	36,540	52,038	96,080	68,282	96,080	124,637	201,825	201,825	218,230	219,530	223,961
対民間部門貸出量(億ペソ)◎	53,574	90,862	237,481	172,774	237,481	314,366	436,475	436,475	488,108	—	—
(前年比、%)	(42.4)	(69.6)	(161.4)	(122.2)	(161.4)	(192.6)	(221.1)	(221.1)	(236.0)	—	—
経常収支(億ドル)	66	▲41	▲210	▲60	▲27	2	35				
対米ドル為替相場◎	102.75	177.13	808.48	350.01	808.48	857.42	911.75	911.75	932.75	952.83	970.92
株価指数(メルバル指数)◎	83,500	202,085	929,704	562,569	929,704	1,213,485	1,611,295	1,611,295	1,481,853	1,717,564	1,697,401

(注)*印: 期中平均値、◎印: 期末値

(資料)アルゼンチン中銀、国家統計センサス局、経済省、アルゼンチン大学、OECD、アルゼンチン経済省より国際通貨研究所作成

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。
ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいますよう、宜しくお願い申し上げます。当資料は信頼できる
と思われる情報に基づいて作成されていますが、当行はその正確性を保証するものではありません。
内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により
保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記して下さい。

会社名：株式会社三菱UFJ銀行 経済調査室
〒100-8388 東京都千代田区丸の内2-7-1

照会先：国際通貨研究所 森川 央 morikawa@iima.or.jp
土橋 里佳 rika_dobashi@iima.or.jp